

2017 年度入試動向 まとめ

2016 年 11 月 27 日

関 孝平

資料： ベネッセ 2017 年度入試出願指導研究会（11 月 9 日@ベルサール秋葉原）
駿台予備校 難関大学入試動向研究会（11 月 22 日@駿台池袋校）

* 模試： 第 1 回ベネッセ駿台マーク模試、第 2 回駿台全国模試の 2 つをデータとして利用。2 つの資料で数字が異なる場合は、原則ベネッセのものを優先し、故国公立難関大学については上位層が集まる駿台を利用している。

* 用語： 「指数」＝ 前年度の志望者数を 100 とした数値

A 全体的な傾向

① 受験人口の減少

- ・ 現役生が増えている、既卒生の減少（既卒生はついに 10 万台を割り切る）
- ・ 2017 年度は前年度よりもやや増
（センター出願数中間発表： 54 万人、前年より 8500 人ほど増）

② 大きな入試科目の変動がなく、ある程度落ち着いた入試に。

- ・ 2015 年度は新カリキュラムへの移行期であり、特に「基礎科目、専門科目」と 2 つに区分けされた理科を中心に、入試科目の変更が相次いだ。
- ・ 2015 年度はセンターでの理科を嫌う傾向 → 私大傾向、安全志向に影響
- ・ 2021 年度の新テスト（大学入学希望者学力評価テスト、仮称）開始までは、大きな変動はない。

③ 上位層が安全志向に走る傾向にあり、難関大学の志願者減が見られる。

- ・ 2015 年度入試は新カリキュラム移行期であり安全志向が目立った。
- ・ 2016 年度は安定志向に落ち着きが見られ、チャレンジ志向が戻る。文系でチャレンジ志向と安全志向の二極化が見られた。

④ 文高理低の傾向が継続。多くの大学で文系学部の人気が高まる。

- ・ 2015 年度は長く見られた理高文低に落ち着きが見られ、2016 年度はついに文系が増える。今年はその傾向がさらに続く。理系は上げ止まりで、減少傾向が続く。
- ・ 2015 年度新カリキュラムによる理系科目の負担が敬遠される。
- ・ 就職状況の安定も文系回帰の一因。

- ・文系の人気の中心はグローバル、国際。
- ・それでも、全盛期に比べれば、文系はまだ少ないと言えるので、恐れず強気受験を。
- ・2016 年度はメディカル系統の減少、理系は数学、情報科学を除き減少（特に化学系統の大幅減少）、工は情報、建築・土木を除いて減少。

駿台・ベネッセマーク模試 受験者数の推移（単位：万）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
文系 国公立型	9.6	10.2	10.3	10.2	10.5	10.1	10.0	10.4	10.6
文系 私大型	18.1	18.9	19.1	19.0	19.7	19.2	19.5	20.4	21.1
理系 国公立型	11.8	12.6	13.3	13.6	14.6	14.7	14.8	14.8	14.6
理系 私大理	14.2	15.1	15.8	16.4	17.8	18.0	18.4	18.5	18.2

* 国公立型は文系 5 教科 8 科目、理系 5 教科 7 科目の志願者、私大型は文系は英国歴、理系は英数理の志願者数を使用。

- ⑤ 志願者数は、昨年度比で、国公立では減、私立では増。全体の指数は 101 でやや増と言える。
- ・2015 年はセンター理科の影響もあり、難関国公立を避け、私大に流れ「これまでにないほど私立の志願者指数が増えた」と分析した。
 - ・2016 年度は国公立、私立の両方で上昇がみられた。国公立は 2014 年度の水準までの戻し、私立は 2 年連続の大幅続伸となった（私大の上昇は特に首都圏に顕著）。

3 か年の志望者指数（前年度を 100 として）

	2015 年度入試	2016 年度入試	2017 年度入試
国公立大学	98	102	99
私立大学	104	105	102

- ⑥ 国公立大学の改組が続く
- ・教育学系統は、国からの要請もあり、「ゼロ免」（教職免許を卒業要件としないカリキュラム）の廃止を中心に、2015 年度から改組が相次ぐ。
 - ・横浜国立大学が大きく改組し、文系学部の募集定員減、文理融合型の新設、などが見られる。

国公立・教育学系統の改組が見られる主な大学

2015 年度	東京学芸、埼玉
2016 年度	弘前、岩手、宇都宮、千葉、山梨、信州、静岡、三重、福井、和歌山、愛媛、福岡教育、佐賀、大分、宮崎
2017 年度	茨城、横浜国立、新潟、愛知教育、大阪教育、島根、熊本、鹿児島、琉球

国公立・人文学系統の改組が見られる主な大学

2017 年度	山形（人文社会、地域教育文化）、茨城（人文社会科）、三重（人文）、神戸（文）、島根（法文）
---------	---

⑦ 社会的ニーズの高い学部系統の新設

- ・ 数理・情報分野の強化 → ビックデータ、人工知能を扱うなどを扱う
- ・ 実社会への対応 → 文理融合型、課題解決型
- ・ グローバル人材育成 → グローバル系

学部・学科の新設が見られる主な大学

2015 年度	青山（地球社会共生）、順天（国際教養）
2016 年度	千葉（国際教養）、学習院（国際）、近畿（国際） 東京理科（ビジネスエコノミクス）
2017 年度	神戸（国際文化）、横浜国立（都市科）、東京海洋（海洋資源環境） 山形（理学部データサイエンスコース）、新潟（創生） 滋賀（データサイエンス）、大分（社会イノベーション） 津田塾（総合政策）、北陸（国際コミュニケーション、など） 南山（国際教養）、東洋（国際）

⑧ 看護学系統の学部の新設

- ・ 大学の新設は岩手保健医療大学、福井医療大学を含めて 4 大学
- ・ 学部新設は、岩手医科大学、東邦大学、など。

⑨ 英語重視の傾向

英語重視の入試変更が見られる主な大学

2016 年度	お茶の水女子大学（理）、千葉大学（園芸、教育）、帝京
2017 年度	高知（医）、宮崎（工）、宮城（看護）、山口（理）、日本（文理）、中京

⑩ 4 技能型の英語外部検定試験の利用が目を見張るレベルで活発になっている

英語外部試験の採用が見られる主な大学

2015 年度	上智、関西大学、立教、立命館 APU、
2016 年度	東大、京都、神戸、千葉、東京海洋、東京理科、青山学院、中央 学習院、法政、東洋、獨協、南山、立命館、関西学院大
2017 年度	宮城教育、鹿児島、筑波、群馬、広島、金沢、早稲田、明治、甲南、 駒澤、武蔵、専修、東京女子、京都外国語

⑪ 大阪大後期廃止の影響により、関西の大学では志望者増が見られる。

- ・ 関東圏には大きな変化はないと予想される。

⑫ 国公立は B 判定を目安に出願指導（1 回受験のため）

私立は C 判定を目安に出願指導（複数回の受験が可能のため）

⑬ 私立大学の入学定員増加

- ・ 定員充足率の厳格化が進み、2016 年度から合格者を軒並み絞っている（基準を超えて入学者を確保した場合は補助金がカットされるため）。今後もその傾向は続き、私大の合格は抑えられ、さらに厳しい入試になることは必至。
- ・ 2016 年度は早慶上智で合格者の指数は前年度比 97、MARCH は 102 だったが、法政を抜くと軒並み減少。
- ・ MARCH レベルの大学でも、生徒数確保のため、募集定員を引き上げる策に出る。
- ・ 第一段階の合格を抑え、繰り上げ合格で対応する大学も多い。

私立大学入学定員充足率の基準の改正

	大規模大学 (8000 人以上)	中規模大学 (4000 人以上)	小規模大学 (4000 人未満)
2015 年度 (改正前)	1.20 倍以上	1.30 倍以上	1.30 倍以上
2016 年度	1.17 倍以上	1.27 倍以上	
2017 年度	1.14 倍以上	1.24 倍以上	
2018 年度	1.10 倍以上	1.20 倍以上	

* 以上の数値を超えた場合は、私学助成（補助金）が全額不交付

* 2019 年度以降、1.0 倍を超える入学者数におじて学生経費額を減額

* 2019 年度以降、0.95～1.0 倍にした大学に私学助成を上乗せ

2016 年度入試見られた合格者数の変化（一般入試＋センター利用合計）

	合格者数	前年度比指数	前年度比の倍率
早稲田大	17,976	98	+ 0.3
慶應義塾大	9,252	97	+ 0.3
上智大	5,988	92	- 0.2
早慶上智合計	33,216	97	+ 0.2
明治大	24,144	97	+ 0.3
青山学院大	9,504	94	+ 0.4
立教大	12,838	97	- 0.3
中央大	16,484	99	+ 0.4
法政大	23,192	119	- 0.4
MARCH 合計	86,162	102	0.0

2017 年度入学定員増加の主な大学

	増員数 (人)
東京理科大	+ 324
青山学院大	+ 318
立教大	+ 454
中央大	+ 454
日本大	+ 109
東京大	+ 569
明治学院大	+ 320

B 学部系統別動向

第1回ベネッセ・駿台マーク模試の志望者指数 推移

	2017年度受験生 (2016年模試)		2016年度受験生 (2015年模試)		2015年度受験生 (2014年模試)	
	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立
全体	99	102	102	105	98	104
人文科学	96	102	107	105	96	102
語学	101	100	108	107	103	105
法学	105	105	113	110	101	108
経済・経営・商学	104	108	109	110	97	104
社会学	92	106	128	101	101	101
国際関係学	120	106	113	113	99	108
教員養成・教育学	91	97	98	102	97	104
生活科学	95	95	102	100	95	103
芸術学	104	103	108	101	115	103
総合科学	107	106	101	110	99	102
保健衛生学	100	103	101	104	98	106
医学	95	96	99	107	100	100
歯学	94	94	96	96	101	114
薬学	98	94	97	98	92	99
理学	96	95	97	98	93	100
工学	101	99	100	102	101	105
農・水産学	94	101	101	101	99	104
体育			98	98	106	109

- ① 文系が継続して全体的に上昇、理系は頭打ちでやや減少
 - ・法学、国際、経済・経営系統で志望者数の増加が目立つ
- ② 人文科学、語学は前年並みの志望者指数
 - ・分野別では、文化学が国公立で93と減少し、私立で106と増加している。
 - ・語学は、国公立で人気安定し、志望者の振れ幅が小さい。私立では2015年度に志望者数を減らしたが、昨年度回復基調で、今年は横ばい。今年度は、私大で募集定員が増加している。
- ③ 国際関係、グローバル系の人気上昇
 - ・2010年度以降、文系人気の中心を担う。
 - ・ここ数年、募集人員増も見られる。2014年度から2016年度の2年間で国公立では約130%、私立でも115%程度の定員増加。
 - ・国公立で指数120と大きく上昇。神戸大学・国際文化の新設が影響している。
 - ・私大は昨年までの勢いはないが、それでも106。
 - ・国際系、地域貢献志向型の学部新設も続き、志願者増に拍車がかかる。

- ・特に千葉大学・国際教養は指数 139 と大人気。千葉大自体も、国公立大の中で志願者数 1 位を達成。

④ 法学系統の人気の回復（継続）

- ・2014 年度まで不人気が続いていたが、首都圏を中心に人気の回復。
- ・学科系統でみると、法は国公立 110、私立 105 と志望者増が顕著。
- ・昨年ほどの勢いはないが、今年度も人気継続。
- ・指数 国公立、私立ともに 105

学科系統別の指数

	2017 年度受験生 (2016 年模試)	
	国公立	私立
法学	110	105
政治学	98	107

⑤ 経済系統の人気の回復（継続）

- ・2015 年度は、「経済は不人気」ということで、経営、商と言った実学以外は不調だったが、昨年度は歯止めがかかり、経済学全体の人気の回復。今年も続伸。
- ・指数 国公立 104、私立 108

⑥ 国公立の社会科学系は指数 92 であるが、不人気というわけではなく、昨年度が 128 だったため、その反動と言える。私立大では、昨年 101 に対し、今年度 106 と増加傾向。

⑦ 教育系統の志望者が減

- ・ゼロ免過程（非教員養成系）廃止や学部・学科の改組が相次ぎ、募集人数や入試の変更も多いことから特に国公立は敬遠され気味。
- ・国公立大のゼロ免過程の募集人員は前年度の 65%。これが志望者減に直撃している。
- ・私立大では、2010 年度から 2015 年度の間で 160%もの人員増が行われているが、今年度も新設学部もあり、募集人員は増加中。
- ・指数 国公立 91、私立 97
- ・教員養成系： 国公立 96、私立 97
- ・非教員養成系： 国公立 62、私立 97

⑧ 生活科学は、志望者減。

- ・食物、栄養学、児童学など、人気も見られる学部。
- ・生活科学は国公立で大きく続伸。
- ・国公立は昨年増加も、今年は減。私立は続落。

学科系統別の指数

	2017 年度受験生 (2016 年模試)		2016 年度受験生 (2015 年模試)	
	国公立	私立	国公立	私立
生活科学	125	92	114	102
食物・栄養	94	97	100	100
被服・服飾	---	102	---	101
児童学	89	92	104	99
住居学	97	95	117	112

⑨ 保健衛生系は横ばい。

- ・ 2015 年度で人気上昇に落ち着き、以後、落ち着いた入試に。メディカル系が低調な中で健闘と言える。
- ・ 新設大学： 岩手保健医療大学、福岡看護大学の影響で私大志望者が増加。

学科系統別の指数

	2017 年度受験生 (2016 年模試)		2016 年度受験生 (2015 年模試)	
	国公立	私立	国公立	私立
看護	100	104	101	106
医療技術	92	100	125	97
保健	91	94	115	117
体育・健康科学	93	105	114	100
理学療法	96	95	100	106
作業療法	92	93	101	99
放射線技術	99	109	98	100
検査技術	109	112	95	115

⑩ メディカル系統の人気下降。

- ・ 医は、医師不足の対応として、2008 年度より募集人員が増やし、2007 年度の 7800 人から 9400 人を超えるまでになった（2019 年度まで継続）。一方で、志望者数は減少。
- ・ 薬は、2014 年度まで人気傾向の薬学は、2015 年度人気上昇が落ち着き、やや減。2016 年度は志望者を減らし、国公立 98、私立 94 と志望者減。
- ・ 歯は、一昨年は前の年の反動で上昇。しかし、その後は減少傾向で今年も続落。

⑪ 理学系統は志望者減

- ・ 数学は安定、情報科学は人気。

学科系統別の指数

	2017 年度受験生 (2016 年模試)	
	国公立	私立
数学	91	100
物理学	94	94
化学	88	88
生物学	98	90
地球科学	92	94
情報科学	112	100
総合理学	91	94

⑫ 工学系統は情報工学、建築系統を除いて、志望者減。

- ・ 建築関係は震災復興、オリンピックの影響もあり、ここ数年安定して人気。

学科系統別の指数

	2017 年度受験生 (2016 年模試)		2016 年度受験生 (2015 年模試)	
	国公立	私立	国公立	私立
機械工学	101	98	99	101
電気・電子・通信工学	97	97	94	96
情報工学	104	105	100	105
建築・土木・環境工学	107	108	107	109
応用工学	97	94	98	102
生物工学	96	88	104	98
その他工学	101	96	102	100

⑬ 農・水産は良くも悪くも安定。

- ・ 私大が少ないため、主に国公立の受験となる。

C 偏差値層別動向

第 1 回ベネッセ・駿台マーク模試 B 判定ライン別の志望動向 推移

偏差値帯	2017 年度受験生 (2016 年模試)				2016 年度受験生 (2015 年模試)			
	国公立 文系	国公立 理系	私立 文系	私立 理系	国公立 文系	国公立 理系	私立 文系	私立 理系
70 以上	98	85	81	69	112	106	109	103
60~70	105	96	110	95	104	100	108	101
50~60	98	106	99	99	104	99	103	100
40~50	174	53	97	89	108	100	98	98

- ① 上位層の安全志向が目立つ。特に理系で顕著に見られる。
 - ・ 2015 年度は安全志向で上位層が減り、2016 年度は、強気志向が見られた（偏差値 70 以上の層が国公立文系で 112 をマーク）。
 - ・ 2017 年度は昨年度の反動を考慮しても、かなりの弱気志向と言える。国公立理系 85、私立文系 81、私立理系 69 という数字は顕著。
 - 国公立で言えば東大、京大、私立で言えば早慶の層が志望者減
- ② 国公立文系で地方国公立大に当たる層の指数が大幅に上昇。
 - ・ 偏差値 40~50： 指数 174（昨年度 108）
- ③ 理系は全体定期的に低調。理系志望者全体が落ちていることに加え、上位層の弱気志向が加わり、特に上位層で減少が目立つ。下位者層でも、大幅減が見られる。
 - ・ 偏差値 70 以上： 国公立 85（昨年度 106）、私立：69（昨年度 103）
 - ・ 偏差値 40~50： 国公立 53、私立 89
- ④ 私立文系： 上位層が大幅減。その次の偏差値層に受験生が流れている。
 - ・ 偏差値 70 以上： 指数 81
 - ・ 偏差値 70 以上： 指数 109

D 大学別動向 国公立 (特別表記がない場合は前期試験)

<概況>

【難関国公立 10 大学】

第 1 回ベネッセ・駿台マーク模試 難関国立 10 大学の志望動向 推移

	2017 年度受験生 (2016 年模試)				2016 年度受験生 (2015 年模試)			
	前期 文系	前期 理系	後期 文系	後期 理系	前期 文系	前期 理系	後期 文系	後期 理系
北海道大	105	93	116	94	107	103	108	105
東北大	105	97	116	106	111	105	132	117
東京大	101	96	---	---	115	106	---	---
東工大	---	104	---	90	---	103	---	220
一橋大	103	---	106	---	108	---	160	---
名古屋大	103	98	---	114	106	102	---	152
京都大	105	98	117	---	101	101	---	---
大阪大	106	98	---	---	107	101	100	100
神戸大	101	98	147	---	98	94	95	103
九州大	107	102	111	101	108	100	101	91

- ① 全体では前年並み。文系は全て志願者増、理系は減少
 - ・ 10 大学全体での指数は 98 (昨年度 102)
 - ・ 2015 年度の強気志向だったが、その揺り戻しが一因。
 - ・ 文系は 10 大学全てで志望者増。受験校をスライドしても激しい競争に変わりはない。
 - ・ 前期理系で志望者増なのは、東工大と九州大学のみ。
- ② 前期受験の指数は 100、後期は 86。大阪大の後期廃止の影響。
- ③ 東大は、昨年度、後期廃止の影響と強気志向により、文系が大幅上昇したが、今年は前年並み、理系は減。
 - ・ 東大： 文系 101 (前年度 115)、理系 96 (前年度 106)
- ④ 京大の志望者は前年並み。
 - ・ 大学全体の指数は 99
- ⑤ 一橋、東工大が増。東大の層が流れているか。
 - ・ 一橋大： 103 (前年度 107)
 - ・ 東工大： 104 (前年度)
- ⑥ 2016 年度、一橋大、東工大の後期は、東大後期廃止の影響で、大幅 UP した。今年もその傾向が継続され前年度と大きく変わらず(東工大はやや揺り戻しがあるが)。文高理低を反映し、一橋で、東工大は減少。
 - ・ 一橋大 106 (前年度 160)
 - ・ 東工大 90 (前年度 220)
- ⑦ 北海道大学は全体的にやや減少。
 - ・ 法学部、教育学部は志望者増

2017 年度入試動向 まとめ

- ⑧ 名古屋大は全体では前年並み。改組される情報学部は 200 と大幅増加。
- ⑨ 大阪大は後期廃止。前期日程の志望者増&西日本の周辺大学に影響。
 - ・前期文系 106
 - ・理系は募集減もあり前年並み
- ⑩ 2016 年度志望者を減らした神戸大。前期は前年並み。後期は大阪大後期廃止の影響で、文系 147 (前年度 95) と大幅増。
 - ・神戸大： 前期文系 101、前期理系 98
 - ・京大前期を第一志望者とする後期の併願校として、大阪大から神戸大に移る傾向も。
 - ・2017 年改組の国際人間は、募集人員減もあり、志望者も減る。
- ⑪ 九州大は全体としては前年並み。後期は大阪大後期廃止の影響で、文系で志望者増(指数 111)。

【関東主要国公立】

第 1 回ベネッセ・駿台マーク模試 難関国立 10 大学の志望動向 推移

	2017 年度受験生 (2016 年模試)				2016 年度受験生 (2015 年模試)			
	前期 文系	前期 理系	後期 文系	後期 理系	前期 文系	前期 理系	後期 文系	後期 理系
筑波大	97	101	100	104	110	107	107	105
埼玉大	105	105	110	114	104	98	63	86
千葉大	100	89	88	97	119	100	109	95
お茶の水	94	105	116	122				
電気通信大	---	99	---	114	---	89	---	163
東京外国語	97	---	96	---	104	---	98	---
東京海洋大	---	102	---	96				
東京学芸大	104	95	107	96	98	101	90	110
東京農工大	---	96	---	97	---	92	---	93
横浜国立大	93	104	91	101	102	96	102	99
首都大東京	112	109	103	103	106	107	102	95
横浜市立大	106	93	---	---	111	95		

- ⑫ 筑波大学が前年並み
 - ・2015 年度は大きな入試変更があり志願者減。2016 年度はその揺り戻しがあったが、今年度は落ち着いた動向。
- ⑬ 埼玉大は前期、後期共に上昇。
 - ・2016 年度は、教育学部後期の廃止により大幅に減少したが、今年度は前年を上回る。
- ⑭ 首都大学東京で上昇
- ⑮ 千葉大は国際教養を除いて軒並み減少。
 - ・2016 年度新設の国際教養が指数 241 と大幅上昇。それ以外の学部は志望者減少。
 - ・千葉大は 2016 年度入試において、国公立で志望者が全国 1 位となる。2017 年度はその揺り戻しも一因。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・科目負担増（センター地歴公民 4 単位もの、理科専門 2 科目）が影響し、敬遠される。
 - ・新設の国際教養の影響。国際影響を除くと前期の指数は 103 で昨年よりやや増。
- ⑩ お茶の水女子大が後期で大幅増。
- ⑪ 電気通信大で後期の志望者増。
- ・前期は、2016 年度からの理科 2 科目受験が敬遠され、指数 89 と下げたが、今年度は昨年度から微減（指数 98）
 - ・2016 年度の後期は、理科 1 科目受験＋募集人数増加に付き、大幅に人気上昇（指数 163）。今年度も続伸（指数 114）
 - ・学科別募集から学部一括募集に変更

【大学別】

< 東京大学 >

- ① 文Ⅰ： やや不人気傾向＋弱気受験で志望者減。
- ・駿台全国模試では指数 87 も。
 - ・上位者層は変わらず。全体の難易度は大きく変わらない。
 - ・B、C ラインの志望者が減る。 → この層の生徒はチャンスがある
 - ・2016 年度後期廃止により一橋・法と後期併願が増加。その他、京大や九州大。大阪大も併願が見られる大学だったが、今年より後期廃止、九州大などにやや流れるか。
 - ・私大併願： 早慶中央の法学部。
- ② 文Ⅱ： 志願者やや増（指数 103）、上位者が増え、難化傾向。（偏差値差＋1.0）
- ・昨年度は志望者増も上位者が減り、易化（偏差値差－0.8）。今年度はその反動も。
 - ・後期併願： 一橋・経済が圧倒的。東北大、横浜国立大も併願候補に。
 - ・私大併願： 慶應・経済、商、早稲田・政経、商
- ③ 文Ⅲ： 志願者減（指数 98）も、A ライン以上の上位層が増え、やや難化か。
- ・センターの結果を受けて、文Ⅰ、文Ⅱから受験生が流れてくる。
 - ・B～C ラインの層に減少が見られる。
 - ・後期併願： 一橋が多く、その他、大阪大、東北大、九州大、東京外国語、筑波など。
 - ・私大併願： 早稲田・文、法（セ）、慶応・文、商
- ④ 理Ⅰ： 志願者減（指数 89）＋弱気受験、上位層も減少で易化（偏差値差－0.5）
- ・A、B、C ラインすべての層で志望者減。
 - ・後期併願： 東工大 7 類、東北大・工、九州大・工、横浜国立大。一橋・経済も。
 - ・私大併願： 慶應・理工、早稲田・基幹理工、先進理工
- ⑤ 理Ⅱ： 志願者減（指数 94）、上位層も減少で易化（偏差値差－0.5）。
- ・A、B、C ラインすべての層で志望者減。特に B～C ラインの層が大きく減少。
 - ・センターの結果を受けて、理Ⅰ、理Ⅲから流れてくることが予想されるが、今年度はそれらも志望者減のため、大幅な流入は見込めない。
 - ・後期併願： 北大・農、東工大 7 類、千葉大・薬、東北大・理、東京農工大・農。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・私大併願： 慶應・理工、早稲田・先進理工
- ⑥ 理Ⅲ： 志望者減（指数 92）だが、B ライン周辺はやや増。前年並み～やや難。
 - ・C ライン以下が大幅に志望者減 → 難易度に大きな影響なし
 - ・動向に関係なく超ハイレベル。
 - ・後期併願： 東京医科歯科大、千葉大が主。大阪大・医の後期廃止の影響は特に千葉大で顕著か。その他、山梨大、奈良県立医科大にも多少影響あり。
 - ・私大併願： 慶應、東京慈恵会医大、防衛医科大、順天堂大
- ⑦ 2016 年度の後期廃止の影響は文系は一橋、理系は東工大に見られた。
- ⑧ 文化類、理Ⅰ、理Ⅱは記述偏差値 75 が合格の目安。理Ⅲは 80。
- ⑨ 推薦入試
 - ・2016 年度結果 100 人募集、77 名合格／173 志願者
 - 合格の埋まらなかった 23 名は前期の枠に回った
 - ・今年度の志願者数は 173 名で 2016 年度と同じ。合格者数に注視したい。

<京都大学>

- ① 文： マーク模試の指数は 102 だが、駿台全国模試では 87 と昨年度よりも大きく減少。C ライン以上の志望者数は昨年度とほぼ一致で入試難易度に変化なし。
- ② 法： 志望者増（指数 114）、レベルも A～C ラインの間で上昇し、多少の難化が見られる可能性あり（偏差値差+0.8）。倍率も 3 倍台に近づく勢い。
 - ・後期、特色入試は第 1 段階選抜基準が変更。駿台全国模試では 134 の指数を出した。昨年度の 10 倍から 15 倍へと志願倍率となっている。
 - ・後期は、昨年度、東大後期廃止の影響を受け、志願者が増えている。前期東大との併願が増える。
- ③ 経済： 昨年度は大幅増（132）。今年も続伸。
 - ・文系は 108。B ライン以上で志望者が減り、やや易化が予想される（偏差値差-0.7）。
 - ・このところ経済<理系>が特に増えおり、今年も大きく伸ばし 130。倍率も 5 倍台で、文系の 3 倍台を超える。下位層の増加が目立ち、偏差値差-1.3。難化せず。
- ④ 教育： 昨年大幅に志望者を増やしたが（指数 129）、今年度は文系、理系共に指数 95 と減。
 - ・文系は B ライン以上で志望者がやや増え、B～C 以下はやや減る。他の模試の動向をみると前年並みかやや易化もありうる。
 - ・理系はやや難化するか。駿台全国模試では 109 となっている。志望者が増えた部分は下位層とみられる。
- ⑤ 総合人間： 文系、理系共に志望者減。
 - ・文系は、マーク模試では偏差値差は-2.1 と大幅減だが、駿台全国模試では+0.9。駿台模試では全体の志望者は減るも、B ライン以上では増加が見られる。
 - ・一方、理系ではマーク模試で偏差値差+1.9 とあるが、駿台全国模試では C ライン以上の全てで志望者が減り、-0.4
- ⑥ 理： 志望者減。

- ・駿台全国模試では指数 93、偏差値差-1.1
 - ・C ライン以上すべての部分で志望者が大幅減。易化必至。
- ⑦ 工： 全体は志望者減、易化予想。
- ・駿台全国模試で指数 91。学科別にみると情報 113 で元気。あとは軒並み減少。
 - ・地球工は指数 73 と大幅減。昨年 2.0 倍だった倍率を割り切る可能性大。
 - ・全体的に B ライン以上の上位者が大きく減る傾向。情報も志願者は増やすも上位者は減る。
 - ・昨年度から学部一括募集。第 2 志望まで書ける。
 - ・学科の合格最低点は工業化学か地球工が一番低い（ここ 3 年は 560 点台）。学科を選ばずどうしても入りたい層はこの 2 つを書く。
- ⑧ 農： 全体は志望者減。
- ・地球環境工が全国模試で 120、偏差値差+4.1 と人気
 - ・その他は軒並み減少。応用生命科学は 71、偏差値差-1.8。上位層が大幅に減る。
 - ・昨年度から学部一括募集。第 6 志望まで書ける。
 - ・特色入試を新規実施。
- ⑨ 医： 人間健康科学は学科改組。募集減など厳しい条件にもかかわらず志望者は増。
- ・学科改組： 人間健康科学、募集人数 70 人（45%減）、第 1 段階選抜 5 倍から 3.5 倍（高度医療を目指す目的、大学院への定員移動）
 - ・学科改組に関わらず、志望者指数は 125
 - ・大阪大の後期廃止により、広島大、奈良県立大学との後期併願が強まる。

<東京工業大学>

- ① 2016 年度は学部学科改組、募集定員の変更、推薦&AO の導入をを行った
- ・3 学部 23 学科 → 6 学院 17 系
 - ・入試時の募集単位は第 1 類～第 7 類のまま変更なし
 - ・第 1 類は推薦入試（10 人、現役のみ）
 - 第 2 類～第 7 類は AO 入試（10~20 人、現役および既卒生）
 - いずれもセンター試験で 85%を取ることが目安
- ② 全体としては志望者やや増。第 1 類～第 3 類は人気がなく 2 年連続の志望者減、第 4 類～第 6 類は 2 年連続の志望者増。7 類は今年は大幅アップ。
- ・第 1 類～第 3 類は倍率 3 倍台後半～4 倍、第 4 類～第 6 類は 1 ポイント程度高い数字。
- ③ 第 1 類： 志望者減（指数 95）、駿台全国模試では 107 で増加も見られる。上位層は大きく変わらず、難易度は前年度並み。
- ④ 第 2 類： 志望者減（指数 91）、一方で A~B ライン付近の上位層がやや増える。
- ⑤ 第 3 類： 志望者減（指数 96）、偏差値+0.6。C ライン以上の上位層がやや増え、難化予測。
- ⑥ 第 4 類： 志望者増（指数 99）、駿台全国模試では 105 と増も見られるが、前年並みと予測。
- ・2015 年度は志望者、レベルともに上昇し難化
 - ・2016 年度は募集人員変更もあり、大きく志望者を伸ばす。

- ・合格最低点が全類の中で 5 年間トップ。
- ⑦ 第 5 類： 人気の情報。志望者指数 2 年連続大幅増加（指数 115、昨年 119）。B ライン前後で志望者がやや増える。その他、C ライン以下も大幅増。やや難化の可能性も。
- ⑧ 第 6 類： 志望者増（指数 108）。上位層もやや増え、前年度並み～やや難化の予測。
 - ・2016 年度は志願者も大きく上昇し、レベルも上がった。
 - ・震災、オリンピックの波で、ここ数年人気、難化傾向
- ⑨ 第 7 類： 昨年は志望者減も今年は大幅に増加（指数 129、昨年度 88）。偏差値は変わらず、C ライン以上は昨年度と一致。C ライン以下で大きく志願者が増える。
 - ・募集人数変更： 2014 年度 133 人 → 2015 年度 113 人 → 2016 年度 95 人
- ⑩ 英語の試験が難しくなりつつある
 - ・グローバル人材育成のため、理数系だけでなく英語も重視するバランス型入試
 - ・グローバル企業就職率 国内 NO.1 22%

<一橋大学>

- ① 2016 年度の東大後期廃止の影響で、受験生が流入した。
- ② 今年度は、全体的には志望者がやや上がるも、難易度に大きな変化なし。
 - ・昨年度は上位層が東大受験に移り、上位者層が B～D 層が減っていた。
 - ・今年度は C ライン付近およびそれ以下の上昇が見られる。
- ③ 法： 法学の人気回復で志願者は上昇（指数 111）。C ライン以降の増加が見られ、上位層はほとんど変化なく、難易度は前年並み。
 - ・下位層の上昇は東大文 I の減少と一致。下位者の東大受験者が一橋に流れる。
 - ・後期併願： 北大、千葉大、神戸大、東京外国語、横浜国立大
 - ・私大併願： 中央・法、早稲田・法、明治・法
 - ・前期志望変更先は例年と同様に東大文 I が一番多いが、今年はさらにその数を伸ばした。」つづいて、京大、大阪、東北大と続く。東大文Ⅲ類もベスト 5 に入ってきた。
 - ・後期は東大志願者の併願が多い。
- ④ 経済： 志望者指数 102 で前年度並み。上位者は減少も見られ、やや易化の可能性あり。
 - ・駿台全国模試では指数 82 と減少。
 - ・後期併願：
 - ・私大併願：
- ⑤ 商： 志願者増（指数 104）。難易度は前年度並みか。
 - ・駿台全国模試では上位者が減る。易化の可能性も含む。
 - ・後期併願： 横浜国大、千葉大、東北大
 - ・私大併願： 慶應・経済、商、早稲田・政治経済、商、明治・政治経済
- ⑥ 社会： 志願者指数 98 の増、上位層はやや減で易化も予想されるが、駿台全国模試（指数 108）や 11 月の一橋模試では志願者を増やしている。
 - ・前期センターは理科の割合がとて高く（全体の半分以上）、2 次では数学の配点が低い（820 点中 130 点）。理科の負担により上位者がやや逃げているか。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・後期併願： 東京外大、横浜国大、北海道大、お茶の水女子大、千葉大
 - ・私大併願： 早稲田・社会、文化構想、慶応・商、明治あ・政治経済、中央・法
- ⑦ 経済、商、社会はここ数年偏差値 60 代後半の合格率が上昇。記述模試では 70 を目安にした
い。

<北海道大学>

- ① 前期は文（指数 113）、法（103）、教育（116）で増加傾向。
・経済は今年度 97 と微減も、大幅に増加した前年度（122）と同水準、
- ② 文系総合入試は 103 の微増、理系総合入試は 89。
・理系総合は理科の解答時間を増やし、理科での差が付くようになる。志望者減も偏差
値差は+0.6 となる。
- ③ 教育は前年度、前後期共にダウン（前期 87、後期 83）したが、今年は前期 116、後期 164
と上昇。
・後期は 164 と出ているが、募集人員 10 人のところであり、小さな変化でも数字が大
きく出やすい。
- ④ 文系後期は軒並み上昇。
・指数： 法 126、経済 111
- ⑤ 水産が前後期共に大きく志望者減。偏差値差はむしろプラス。
- ⑥ 歯は前期、後期に偏差値差が大きくアップ。
・前期：指数 106、偏差値差+3.3、 後期：指数 96、偏差値差+2.8
- ⑦ 医は前期 103 で微増。昨年度までの水準を維持。
・2016 年度は 125、2016 年度は 124 と大幅に続伸していた

<東北大学> S66~68

- ① 2016 年度は募集人数の変更あり。一般入試の募集人数減
・東北大は入試改革に合わせ、全学部で一般と AO の割合を 7 : 3 にすることを進める。
- ② 前年度志願者増となった文、教育は指数 95 と減少。
・教育は 2015 年 70、2016 年 117、2017 年 95 と揺り戻しが大きい
- ③ 法、経済で指数 113 と伸ばす。
- ④ 経済： 後期が年々難化の傾向。東大前期受験者が続々流入。
・志願者指数 116、偏差値差は+3.7 と大幅上昇。
・2016 年度東大、2017 年度大阪大の後期廃止に伴い、東北大後期受験者の前期の併願
先に変化。1 位東北大は減る傾向（2014 年度は 50%、2016 年度は 35%）。一橋、東
大、京大が増加。阪大の後期廃止に伴い、今年は一層東大の前期受験者流入が顕著。
- ⑤ 農： 2016 年はやや減の 98。今年も 96 と数字を減らすが、偏差値差は+0.5。
- ⑥ 工： 2016 年度は募集人員-24 人に反して志願者指数 111。2017 年度は 96 の減。
- ⑦ 理： 前期は前年度並み、後期は指数 106、偏差値差+1.4 でともに続伸（2016 年度は指数
117、偏差値+1.3）。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・2016 年度以降、後期受験者の前期の併願先は、東大が 13 ポイント上昇で 1 位に。東北大、京大、東工大と続く。

<筑波大学> S71~72

- ① 2016 年度は、2015 年度の揺り戻し＋第一次選抜廃止に伴い、志望者回復
 - ・2015 年度は入試変更が多く、敬遠された
 - 例) 人文・文化、社会・国際：センター5 科目 → 15 年度 フルセット
医（看護）： 国語必須 → 15 年度 国語 or 理科の選択
- ② 社会・国際： 前期 104、後期 114
- ③ 人文・文化： 前年度に続き続伸 104、偏差値差は－0.5
- ④ 情報（文・理）： 文系は前後期ともに志望者を大きく下げる。偏差値差も－1.7 となり易化。
理系は上昇
 - ・指数 文系 前期 74、後期 75、 理系 前期 107、104
- ⑤ 医： 指数 104 も C 未満以下に増減が見られ、それ以上の層では変化なし。

<千葉大学>

- ① 2015 年度は入試変更が多く、全体的に志望者減が目立った。2016 年度は国際教養の新設もあり、人気に戻る。国公立の志望者数全国 1 位となる。
- ② 2017 年度は、入試変更（科目負担増）と昨年度の反動で、国際教養以外は減少。
- ③ 入試変更。旧帝大に並ぶレベルに移行。
 - ・法政経、理、薬、看護、園芸で地歴公民 4 単位ものを必須とする
 - ・理、看護では理科の科目が 1 科目から 2 科目に
- ④ 2016 年度から募集人員を圧縮し、後期では全学部英語を必修とする。
- ⑤ 2016 年度新設の国際教養は初年度から難易度の高い入試だった。2017 年度通常型はさらに指数 139 と志願者を伸ばし、上位層も大幅に増え、難化必至。一方、特色型はもともとの志願者の少なさに加え、今年度さらに指数を下げる。
 - ・90 名（通常型 80 名、特色型 10 名）の募集
 - ・通常型では英語外部試験を利用可能。特色型は小論文と英語面接。
 - ・2016 年度入試： 通常型 合格 104／志願 369 名 倍率 3.3
特色型 合格 12／志願 17 名 倍率 1.4
 - ・2016 年度入試を見ると記述偏差値 62～64 が合格率 50%。60 未満からの合格率は他の文系学部と比べても厳しい。
 - ・後期併願： 茨城大、国際教養大、都留文科大、高崎経済大
 - ・私大併願： 明治・国際日本、立命館・国際関係、津田塾・学芸、明治・文
 - ・B 判定基準： 筑波・社会国際 > 千葉・国際教養 > 千葉・文 > 横市・国際総合
- ⑥ 法政経：
 - ・2015 年度から入試変更し、個別重視型へ。
 - ・2016 年度から「経済学得心プログラム選抜」 2016 年度志願者ゼロ

2017 年度入試動向 まとめ

センター＋面接、英語外部検定が出願条件

- ・ 2016 年度から募集人数の変更

推薦入試廃止、前期募集人数 272 人 → 295 人

- ・ 2016 年度は志望者数 121、今年度は反動で前期 90、後期 89 と減少。前期は上位層に大きな変化はなく、前年並みの入試に。
- ・ 後期志願者の前期併願は一橋・法が増える。難関大学との併願関係が強まる（併願先 3 位）。東北大とや筑波大との併願も強まる。一方、横浜国大、首都大東京との併願関係が弱まる → 難化

（千葉大前期志望者が後期を受けた場合、合格率 7.5% という厳しい数字）

- ・ 2016 年度入試 前期倍率 2.9 倍、後期 6.7 倍
- ・ 記述偏差値で前期は 60 以上、後期は 70 以上

⑦ 文： 前期は指数 87 と減少。

- ・ 後期併願： 千葉第、茨城大、都留文科大、新潟大
- ・ 私大併願： 明治、中央、法政

⑧ 教育：

- ・ 2016 年度は個別試験において英語を必修化。理系の志願者減が見られた（指数 84）。
- ・ 2017 年度は、小学校で面接、中学は適性検査が加わる。
- ・ 入試変更を嫌って、大幅に志望者減（指数 74）。上位者を含め、まんべんなく志望者が減り、かなりの駅かが予想される。
- ・ 千葉は個別重視、埼玉はセンター重視
- ・ 後期併願： 茨城大、新潟大、都留文科大、静岡大、東京学芸大
- ・ 私大併願： 文教大・教育、青山学院・教育人間、学習院・文、東洋大・文

⑨ 理、工： 科目負担により、志望者数は前後期共に志願者減（指数 91～95）。ただし、上位層は大きく変わらず、難易度の影響は小さい。

- ・ 情報画像は 2015 年度指数 279、2016 年度 116 と人気が出ており、今年も続伸の 126。一方、同じ流れに乗り、昨年度 124 の画像科学は反動で 69 と減少。
- ・ 後期併願： 千葉大、埼玉大、茨城大、電気通信大
- ・ 私大併願： 東京理科大、立教大、明治大、芝浦工大、中央大

⑩ 医：

- ・ 2015 年度から個別重視型に移行。
2014 年 セ 900/個 1000 → 2015 セ 450/個 1
- ・ 2015 年度は変更を嫌い志望者指数 83。2016 年度は回復（前期 115、後期 119）。
- ・ 2017 年度は指数 96 でやや減少も上位者に変化はなし。
- ・ 2017 年度から後期は総合問題、面接が、数学、理科 2 科目、外国語という学科試験に変更される。学科での勝負が掛けやすくなったため、志願者が上昇。指数 127。
- ・ 後期併願： 山梨大、千葉大、岐阜大、浜松医科大、琉球大
- ・ 私大併願： 順天堂大、東京慈恵会医大、昭和大、慶応大

⑪ 園芸：

2017 年度入試動向 まとめ

- ・ 2015 年度から外国語が追加され、敬遠されていた。2016 年は前年並み。
 - ・ 後期は 2016 年度から小論文が総合問題に。
 - ・ 2017 年からセンター地歴公民 4 単位ものが必修。志望者減（指数 86）も、主に B 未満の受験生の減少。大きなレベル変化はない。
- ⑫ 看護： 科目負担増（センター地歴公民 4 単位もの必修、個別試験理科が 2 科目に増加）により、指数 77 と大幅減。上位層も含め、幅広い偏差値帯で減少。
- ⑬ 薬： 科目変更（地歴公民 4 単位ものの必修）により 88 に減少。上位者も大きく減る。

<横浜国立大学>

① 学部改組

教育人間科、理工 → 教育、都市科（文理融合型）、理工

- ② 経済と経営は学部一括募集に変更。
- ③ 経済： 2016 年度は志望者数が増加（指数 114）したが、今年度は 91
- ・ ここ数年センター得点率 70%台後半以上が目安
 - ・ 数学、英語ともに記述模試偏差値 60 代後半を確保したい
- ④ 教育は募集単位が大きく、前年の教育人間科・学校教育と比べて指数 111 と増加。
- ・ 入試変更のある千葉大・教育から流れてきているか。
 - ・ 2018 年度から一般入試の募集減（AO は増加） + 個別試験で集団面接を課す。
- ⑤ 理工： 前年度並みの志望状況。後期はやや志望者減。
- ⑥ 都市科学・建築に志望者が集まる。前年度の理工・建築と比べて指数 140 の大幅増。やや難化傾向。
- ⑦ 都市科学・都市基盤は前年度の理工・都市基盤と比べて指数 74 と減少している。上位層はやや増えているため、やや難化の可能性も。
- ⑧ 都市科学の新設 2 学科（都市社会共生、環境リスク共生）は認知が広まっておらず、まだ志望者が多くない。特に環境リスク共生は 100 人程度と少ない。
- ・ 2 学部とも小論文が個別試験で課される（200~300 点）。
- ⑨ 前期志望変更先として、千葉大、首都大東京に続いて、東工大、東北大、神戸大が浮上。難関大学との併願関係が強まる。
- ・ 後期併願： 横浜国立大、首都大東京、千葉大、信州大、埼玉大
 - ・ 私大併願： 明治・理工、早稲田・創造理工、芝浦工大・建築、東京理科大・工、理工

<横浜市立大学>

- ① 国際総合科学： 全体的に志願者増加。
- ・ 文系は好調だが
 - ・ 理系はセンターでの英語配点が 300→500 と変更された（2 次では英語なしで、数学、理科重視）。志願者減につながる（指数 90）。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・難易度は、理系 A は大きく変わらず、B で上位層が減少。
 - ・ここ数年は実質倍率が下降し、2016 年度は 1.8 倍だった。
- ② 医： 志望者はやや減も A～C のラインは大きく変わらない。

<東京外国語大学>

- ① 言語文化、国際社会： 志望者減も B ライン以上は大きく変わらず、前年並みの予測。
- ・言語文化 指数 93、 国際社会 95
 - ・2015 年度はグローバル人気で志願者が大きく上昇したため、受験も難化し、偏差値 60 代前半の合格者が減少した。2016 年度は反動もあり、ややレベルダウンをした。2015 年度はしていたので、今年はやや増加程度。
 - ・偏差値 70 台付近の上位層における志望者数が多い

<東京学芸大学> S78 B57

- ① 2015 年度 教育学部改変、募集人数変更
- ・2014 年 教育系 730 人 → 2015 年 学校教育系 825 人 (拡充)
 - 教養系 335 人 → 教育支援系 185 人 (縮小)
- ② 前期は昨年度と変わらず
- ③ 後期は文系が指数 90、理系が 110。偏差値層はややダウン。

<東京海洋大学> S80～81 B75

- ① 2016 年度より英語外部試験のスコア提出が義務化
- ② 学部改組
- 海洋科、海洋工 → 海洋生命科学、海洋資源環境、海洋工
- ③ 前期の指数は海洋工 102、海洋生命 110、海洋資源 94
- 後期は全て 90 台前後の指数で減少
- ・2016 年度は前期、後期共に志望者増 (指数 113、126)

<電気通信大学>

- ① 2016 年度は学科改組と募集形式変更
- ・4 学部 → 3 類 (情報系、融合系、理工系)
 - ・前期 学科別募集 414 人 → 学域一括募集 370 人
(1 年時前学期終了時に希望と成績で所属する類が決まる)
 - 後期 学科別募集 207 人 → 類別募集 250 人
(実質は後期の枠が拡大、理科 1 科目も受けやすい)
- ② 前期は落ち込みの見られた前年並み。
- ・2016 年度から理科 2 科目が必須 + 募集人数減で志望者を
- ③ 後期は昨年 (指数 141) に続き、今年度も増加 (113)
- ・理科 1 科目受験。募集人数増。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・ 募集人数が 250 名と多く、受け皿的に機能
- ④ 2016 年度から個別重視型に移行、さらに上位 50 名は 2 次の結果のみで合格になる。東工大のようなスペシャリスト育成志向。

<東京農工大学>

- ① 昨年度の反動が予測されていたが、志望者指数が工 97、農 93 と前年より減少（昨年度 94）。偏差値差はほぼ変わらず、難易度に大きな変化なし。
- ・ 2016 年度は 8 学科中 4 学科で募集人員が増加。
 - ・ 2016 年度前期： 理科 2 科目が必須に。
- ② 工 前期： 2015 年度からセンター重視型に移行（セ 900/個 500）
- ・ 志望者減も B 以上は変わらず
 - ・ センター70%前後からの 2 次逆転合格は厳しい
 - ・ 工は実質倍率が年々下降気味。

<首都大東京>

- ① 都市教養： 前期 志望者増（106）、後期はやや減（98）
- ・ 理科 1 科目で受験可能。受けやすい者の、歩留まりも悪く、定員に対して高い割増率で合格を出す。
 - 都市/法学は 210%を筆頭に、全体でも 110%の割増率。
 - ・ 特に都市/経営学は A、B 方式と尾に 112~116 の志望者増。後期も増（121）。上位者も増加。
 - ・ 千葉大・法政経を志望変更先として考える志望者数が増加
- ② 都市環境： 前期 116、後期 115 と共に志望者増
- ・ 建築都は指数 119、B 未満の受験生が増加。上位には変化なし。
 - ・ 横浜国大・都市科学/建築との併願関係が強い
- ③ システム工： 前年並み
- ④ 2018 年は都市教養を中心に大きな学部改組

<埼玉大学>

- ① 2015 年度は全体として低調。2016 年度は一部を除いて前年並み。回復には至らず。
- ② 経済（一般枠）： 厳しい受験となった前年並み。
- ・ 2016 年度から志望者増（国際枠からスライド）により上位者も含めて志望者増（指数 113）。倍率も 1 ポイント近く上昇（2015 年度 2.0 → 2016 年度 2.9）
 - ・ 偏差値帯別の合格率も大きく下がり、難化が見られた。記述偏差値 50 代後半を取りたい。
- ③ 経済（国際枠）は昨年度の反動もあり志望者増（指数 121）。募集単位が少ないの指数の上下が激しく見える部分もあり。
- ・ 2015 年度は 138、2016 年度は 60

2017 年度入試動向 まとめ

- ・ 2016 年度から 2 次で小論文が課される。負担増を敬遠。
- ④ 教育： 学部全体の志望者数は減少（指数 92）。上位者もやや減少。学科によっては上位者減少が顕著なところも
 - ・ 入試変更： 総合問題の範囲に倫理が含まれる。
2016 年度 地理 B、政経 → 地理 B、倫理政経
 - ・ 2016 年は後期廃止 → 前期は志望者増（指数 110）。
 - ・ 2016 年度より後期廃止： 茨城大学・後期との併願関係が強く、合格率も高い。
都留文科大・後期併願の志望者増
- ⑤ 理系： ここ数年実質倍率の低下が見られていた、2015 年度の志望者指数は前年並みだったが、今年は総じて志願者減。
- ⑥ 理： 志望者数が続落（前後期共に指数 95）。上位層も減り、易化予測。
 - ・ 入試変更： 理科 2 科目のうち物理は指定となる
- ⑦ 工： 前期 105、後期は 122 と上昇。しかし、B 以上は変わらず。
 - ・ 2015 年度からセンターの国語が現代のみで出願できるようになった影響
 - ・ 建築は 2016 年度は指数 115 だったが、今年度は指数 98 でやや減。
 - ・ 情報システム工が 113 と人気。
- ⑧ 教養： 前期、後期共に指数 120 程度で志望者大幅増。B 以上も大きく伸び、難化予測。
 - ・ 入試変更 公民が 2 単位ものも可になる
 - ・ 首都大・都市教養、千葉大・国際教養といった上位学部との併願が目立つ。センター試験の結果いかんでこれらの大学から流れてくることも考えられる。
 - ・ 2016 年度は偏差値 55～65 の合格率が低下し、難化しているのが分かる。記述偏差値 60 以上を確保したい。

<お茶の水女子大学>

- ① 文教育・前は微増（指数 103）も大きく変化なく。
- ② 理： 前期、後期共に志望者増（前期 108、後期 137）。理系不人気でもリケジョ人気。特に後期は上位層も増え、難化するか。
 - ・ 2016 年度は指数 90、平均偏差値 -1.1。

E 大学×学部系統の動向 <国立>

- ① 人文科学： 志望者指数 99 (2016 年度 107)
 - ・新潟大、信州大、千葉大、東北大を除くと、おおむねプラスで文系人気を反映。
- ② 法学： 全体的に志望者増 (指数 107)。昨年度に続き、法学系統の人気回復。
 - ・弱気傾向で東大は 91。その他は、難易度が上がっている千葉大は 84。その他は全体的に上昇。
- ③ 経済： 志望者増 (指数 106)
 - ・難易度の上がる千葉大 84、その他信州大、新潟大、北大が減。その他は全体的に 100 以上。
- ④ 社会・国際： 社会 95、国際 105。前年度はともに指数 111。特に国際は増加が続く。
 - ・千葉大・国際教養が顕著に増加
- ⑤ 教育： 教育全体の指数は 92。
 - ・ゼロ免過程廃止に伴う募集減も影響し、志望者減の学校が多い。
 - ・静岡大、北大、埼玉大、金沢大が増加傾向。
- ⑥ 物理： 指数 94。トップ層は軒並み減少。理系不人気＋弱気受験を反映。
- ⑦ 化学： 指数 88。昨年 95 に続き続落。トップ層はやや減。
 - ・横浜国立、お茶の水女子大などは 1100 前後の増加。
 - ・一方、千葉大 72、筑波大 83、埼玉大 84 など、それ以上の幅で減少。
- ⑧ 機械： 全体指数 104。トップ層はやや減。
 - ・東京海洋大、東京農工大、静岡大、埼玉大、筑波大が増加。
- ⑨ 建築・土木： 指数 106。昨年は 107。当分は人気継続。
 - ・東大はやや減、東工大は 108。
 - ・科目負担が軽い首都大東京が人気。
- ⑩ 農・水産： 指数 95。
 - ・全ての大学で志望者減。
 - ・東大は微減、難易度が下がるほど志望者も減る。
- ⑪ 薬学： 指数 99。東大はやや減。損他の学校は両極端も。
- ⑫ 看護： 指数 100
 - ・2015、2016 年度は基礎 2 科目、専門科目のみ、といった受験パターンの影響を受けた。2016 年度は、両方のパターンにそれぞれ増減が見られる。

F 大学別動向 私立

<概況>

第1回ベネッセ・駿台マーク模試 主要私大 4か年の志望者数の推移 (%は前年度比)

	2016年模試		2015年模試		2014年模試		2013年模試
早稲田大	52,463	102%	51,192	111%	46,292	99%	46,692
慶應義塾大	24,787	101%	24,594	116%	21,272	102%	20,863
上智大	15,312	92%	16,594	102%	16,322	118%	13,868
明治大	57,428	100%	57,664	110%	52,485	101%	51,978
青山学院大	33,310	103%	32,196	114%	28,207	107%	26,462
立教大	33,723	103%	32,798	102%	32,227	106%	30,493
中央大	29,329	101%	29,180	121%	24,195	93%	26,064
法政大	42,418	112%	37,722	106%	35,726	100%	35,842
日本大	57,883	105%	55,191	102%	53,910	109%	49,340
東洋大	37,800	127%	29,793	91%	32,569	98%	33,303
駒沢大	21,341	108%	19,840	114%	17,338	107%	16,261
専修大	15,574	111%	14,030	112%	12,490	96%	13,065
大東文化大	7,297	91%	8,018	95%	8,396	130%	6,477
東海大	17,033	91%	18,692	99%	18,861	106%	17,847
亜細亜大	7,819	111%	7,050	115%	6,135	106%	5,792
帝京大	16,268	103%	15,795	91%	17,430	108%	16,189
国土館大	7,529	97%	7,741	100%	7,768	116%	6,668
國學院大	9,724	98%	9,928	113%	8,819	110%	8,050
学習院大	11,074	110%	10,080	128%	7,895	94%	8,369
成蹊大	12,657	109%	11,586	104%	11,099	96%	11,581
成城大	7,391	96%	7,663	111%	6,876	112%	6,158
武蔵大	5,290	106%	5,012	111%	4,520	103%	4,406
明治学院大	15,125	103%	14,701	106%	13,829	110%	12,571
東京女子大	3,941	103%	3,825	96%	3,983	100%	3,999
日本女子大	6,342	100%	6,373	105%	6,042	94%	6,415
津田塾大	2,397	125%	1,921	91%	2,106	110%	1,913
東京理科大	22,422	102%	22,047	99%	22,289	96%	23,134
工学院大	6,672	104%	6,425	104%	6,176	127%	4,874
芝浦工大	13,676	94%	14,567	104%	14,024	104%	13,476
東京農大	10,952	97%	11,233	96%	11,688	100%	11,666
東京電機大	8,548	106%	8,072	99%	8,164	105%	7,792
東京都市大	4,169	95%	4,382	91%	4,808	101%	4,747
東京工科大	5,419	96%	5,655	110%	5,142	117%	4,401
千葉工大	6,193	102%	6,086	134%	4,541	127%	3,585
北里大	11,332	95%	11,931	105%	11,389	99%	11,538
順天堂大	8,044	105%	7,676	104%	7,403	100%	7,437
文教大	10,204	101%	10,063	112%	9,014	96%	9,363
獨協大	8,039	101%	7,993	112%	7,126	98%	7,245
神田外国語大	5,226	90%	5,806	113%	5,136	113%	4,556
立正大	4,744	109%	4,363	99%	4,397	105%	4,185
明星大	3,842	90%	4,259	106%	4,016	104%	3,873
東京経済大	4,491	115%	3,898	115%	3,389	113%	2,998
桜美林大	3,478	95%	3,655	117%	3,136	104%	3,005
神奈川大	12,189	96%	12,710	111%	11,455	95%	12,093

2017 年度入試動向 まとめ

- ① 首都圏私立の志願者数は増加。
 - ・早慶上は前年並み（上智は減少だが、早稲田が増加）
 - ・MARCH は増、日東駒専は大きく増加の傾向、大東亜帝国がやや減少
- ② 理系は大幅な増加はない。減少が見られる大学もあり。理系人気高止まり。
 - ・ここ数年志望者増が見られた千葉工大は微増。芝浦工大、東京農大は減少。
- ③ 志望者増の目立つ大学： 早稲田、東京理科大、青山学院、法政、学習院、日本、東洋、駒澤、専修、成蹊、武蔵、明治学院、津田塾

【大学別】

< 慶應義塾大学 >

- ① 全体として前年と変わらない志望動向。大学全体は微増。文系やや増、理系はやや減の傾向も。ほとんどの学部で上位者が減り、志望者の偏差値レベルは軒並み下がる。
 - ・2015 年、2016 年と、私立人気に加え、入試日の前倒しによる国公立層の取りこみで志願者が増えていた。今年度は落ち着いた出願動向。
- ② 2015 年度の入試日前倒しにより、医学部以外は国公立前期の前に合格発表が行われる。
 - ・2016 年度は環境情報も前期試験後だったが、今年度は前期試験前に発表。
- ③ 経済： 志望指数 100 も、上位者層が大きく減り、易化予測（平均偏差値差=2.3）。
 - ・A 方式（理系型）、B 方式（文系型）も指数 100 程度。A 方式では顕著に上位層が減っている。
 - ・難関国立との併願、慶應大内での学部間併願
2016 年度 A 方式は理工との併願者は 808 名、B 方式と商は 1130 名
- ④ 商： 志望者指数 102。上位層が減る。
 - ・2016 年度は C 以上の志望者増で難化。
 - ・慶應・経済との学部内併願が多い。
- ⑤ 文、法でも、経済、商同様に上位層が薄く、偏差値降下が見られる。
- ⑥ 総合政策： 指数 100、偏差値差-0.6
 - ・近年倍率が上がっているが、B ライン以上は志望者減も。難易度は前年並み～やや易化か。記述模試で 70 代後半を取りたい。
- ⑦ 環境情報： 指数 95
 - ・同じ SFC でも B 判定値は総合政策の 73 に対して、環境情報は 66。

< 早稲田大学 >

- ① 全体的に志望者増。
 - ・2016 年度は 9 年ぶりに志望者増。今年も増加傾向。主に C ライン未満の増加が多く、レベルは大きく上がらない。
- ② ネット出願に変更。
- ③ 文、文化構想の一般に英語外部試験利用型が新設。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・文： 一般 390 名、外部試験利用型 50 名
 - ・文化構想： 一般 430 名、外部試験利用型 70 名
 - ・文、文化構想で 2016 年度はセンターのみの新規入試が実施。
- ④ センター利用入試は全体的に減。
- ・2016 年度は全体的に増。
 - ・センター後の 1 月 17 日に出席締め切り。結果次第で、単独か併用を考える。
 - ・難関国公立志望者の出席が見込まれる。
 - ・9 割以上の得点率が合格ラインか
- ⑤ 法、社会科、国際教養： C ライン以上に大きな変化なし。
- ・文のセンター利用は単独、併用共に減少（それぞれ指数は 95、90）。
 - ・社会は学内文系との併願が多い。
- ⑥ 文、文化構想：
- ・英語外部試験利用で、一般方式は文で 50 名減、文化構想で 70 名減。
 - ・トップ層は変わらないが、C ライン前後で志望者が増加も。募集減の中で難化予測。
 - ・センター単独は指数 111 と増加も併用は 84 と減少。
- ⑦ 政治経済： 全体的に減少（指数 97）
- ・政治、国際政治は C レベル以上に大きな変化なし
 - ・経済は B、C ラインが減り、減少か。
- ⑧ 商： 一般もセンターも増加（指数はそれぞれ 105、103）
- ・昨年レベルの上があった C ライン以上に大きな変化なし。
 - ・政治経済との併願が多く、厳しい入試が展開される。
- ⑨ 教育、全体としては指数 102 とやや増加も、レベルは下がる専攻もあり。
- ⑩ 基幹理工： 学系Ⅲで C イン以上が大きく増加 → 難化予測
- ⑪ 創造理工、先進理工： 昨年よりも志望者を減らす。C ライン以上が減っている学科が多い
- ⑫ 人間科： 公募制の追加に伴い、センター利用の募集減少。C 以上は大きな変化はないが、C 以下は志願者が増える。

<上智大学>

- ① 人気は頭打ち、今年は減少傾向。
- ・2015 年度は TEAP の影響、総合グローバルの勢い、インターネット出席で全体の指数が 120 を超える人気。2016 年はその人気も落ち着いていた。
 - ・総合グローバルは指数 118、それ以外は志望者減少。
- ② TEAP 利用入試は全体的に志望者減
- ・2017 年度から全学部 4 技能が必須となり、敬遠する動き。
 - ・英語が得意な生徒にとっては、むしろ「英語を活かせない」入試というイメージが強い。
 - ・TEAP 利用入試は他教科でも文章理解力、論理的思考力など総合的な力を問うものにシフト。400 字程度の記述を含む。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・志望者指数が 50 台の学部も見られる。
 - ・2015 年度には 2 ケタ、場合によっては 20 台もあった倍率は、2016 年度には 3~4 倍台が主になり、落ち着く。
 - ・TEAP 利用型の方が、一般より判定偏差値は 1 ポイント低いのが相場。
(ただし、英語が本番では換算されないため、影響のある差なのかは不明)
- ③ 外国語／英語は 2 次試験がなくなるも、志望者指数は 95 と減少した。
- ・入試日が 2 月 4 日から 2 月 7 日に変更。青学・全、法政・GIS とバッティング
- ④ 総合人間： 数学、理科の範囲が変更され負担増。志望者数は 93。
- 数学は数ⅡB まで、理科は専門までとなった。
- ⑤ 総合グローバル：
- ・ここ 3 年、実質倍率を下げているが、今年は反動で指数 118。
 - ・C ライン以上で志望者数が増加。難化予測。
 - ・私大併願： 上智・外、法、早稲田・国際教養、文化構想、明治・国際日本
 - ・今年度は ICU とのバッティングが外れる。

<東京理科大学>

- ① 試験日程： 全 12 日間で 9 日間に短縮
- ・同一試験日で受験科目が同じであれば、2 学科まで出願可能。(検定料割引あり)
- ② 学科名称変更、定員変更 (定員充足率厳格化への対応)
- ・理学部 数情報科学 (600 名) → 応用数学 (720 名)
 - ・理工学部 工業化学科 (1115 名) → 先端化学科 (1240 名)
 - ・工学部 510 名 → 530 名
 - ・基礎工学部 300 名 → 360 名
- ③ 経営： 学部全体で指数 110 で増加
- ・昨年度は神楽坂へのキャンパス移転、ビジネスエコノミクス学科新設で志願者を大幅に増加させ、難化させた。今年も続伸。
 - ・経営学科 108
 - ・ビジネスエコノミクスはセンター方式 106、一般方式 133、グローバル方式 (英語外部試験利用) 189 と大幅に増加
 - ・ビジエコ<グローバル> TEAP スコアだけだったが 2017 年度は他の試験も活用可
→ 基準を満たせば数学 1 科目のみの受験
- ④ 工： 学部全体の指数は 116、ほとんどの学部で志願者を増やす。
- ・情報工の人気は継続。指数 140。今年も難化傾向。
昨年度は 211、倍率も 3.2→4.4 倍とアップ。
 - ・建築も 115 と好調。
- ⑤ 理： 昨年に続き志望者減
- ・2016 年度は慶応・理工とバッティングし、上位層を減らす。
 - ・建築、情報科学、先端化は中でも志望者増加。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・ 2017 年度は 2 月 8 に移り、慶應とずらしたが、上智、中央の理工とバッティング
- ⑥ 薬： 志願指数 95
- ・ 2016 年度は首都圏私立薬学系等で初めて数Ⅲまで出題範囲にした結果、負担増で志望者減（指数 79）、年々合否レベルも下がっていた。
 - ・ C 判定以上でも志願者減、さらなる易化が予想される。
→ 数Ⅲまで準備できればチャンスが広がるということも

<ICU>

- ① 人気に落ち着きが見られ、今年度は指数 83 と大きく下げる。偏差値差は+0.2~0.7 で易化にどこまでつながるかは不明。
- ・ 2015 年度度は志望者増、難易度 UP で 3 倍台の倍率を回復。2016 年度は 2 倍台に戻った。
 - ・ 特殊なため、大幅な志望者増減にはならない。
- ② 2015 年度から入試変更
- ・ B 方式： TOEFL、IELTS のスコアを採用（募集人員 10 名）
 - ・ A、B 方式共に新科目「総合教養」の設置
（15 分のミニレクチャー + 論文を読む → 設問 40~45 問）
- ③ 入試日変更： 2015 年度 2 月 7 日 → 2016 年度 2 月 6 日 → 2017 年度 2 月 4 日
- ・ 上智・総合グロ、立教・全とのバッティングが外れる
 - ・ 上智・ドイツ語、ポルトガル語とバッティング

<明治大学>

- ① 学校全体としては、前年並み。ここ数年の人気上昇は落ち着く。
- ② 文： 昨年増加したが今年は微減（98）
- ・ センター利用でこれまで理科は専門のみだったが今年度より理科基礎科目も選択可能 → 負担減
 - ・ 85%の得点率を目指したい。
- ③ 経営： 前年度までの反動もあり、志望者増（119）。
- ・ 入試変更： 英語型方式 英語外部試験利用、40 名募集
 - ・ 2015 年度は入試変更の影響もあり志望者減少、2016 年も戻らず。
 - ・ 英語方式導入に伴い、3 科目方は定員減。それにもかかわらず指数 202 と大幅志望者増。
 - ・ C レベル以上も増えている。難化必至。
 - ・ センター方式は志望者減。
- ④ 政治経済： 志望者微増、前年並み。
- ・ 入試変更 センター方式 後期廃止
 - ・ グローバル型特別入試 英語外部試験利用
 - ・ 2015 年度は実質倍率 2 倍台。2016 年度はその反動で伸び、難化が予測された。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・早稲田・政経、明治・政経に続き、立教・経済、日大・経済との併願増加
- ⑤ 総合数理： 新設 5 年目。
- ⑥ 理工： 上智・理工が 2 月 8 日に統合され、バッティングが解消
- ⑦ 全学部入試の志願者数は前年度より減となっている学科が多くみられる。

<青山学院大学>

- ① 大学全体の志望者は増。
 - ・2015 年度は地方入試（名古屋、福岡）を導入し、志望者を増やし、この 2 地域からの志望者増が見られる
- ② 文系学部で志望者を増やす学部が目立つ。
 - ・法（109）、国際政経（107）、経済（107）、経営（112）、地球社会共生（124）
- ③ 国際政治経済：
 - ・入試変更： B 方式で英語外部試験が出願資格に。英語個別試験は残る（リスニングは廃止）。
 - ・B 方式を含む多くの方式で B 方式では志願者が増加傾向（B 方式は小さい募集単位のため、指数のふり幅が大きい）。
- ④ 総合文化政策： 学部全体では指数 97 と上昇傾向が落ち着く。
 - ・A 方式は 2015 年度は実質倍率 12 倍、2016 年は 31 倍という驚異的な数字。
（2016 年度は入試日の変更が行われたことも影響）
- ⑤ 地球社会共生： 新設 3 年目。志望者指数 124 と続伸
 - ・A 方式は昨年指数 43 と大きく減らしたが、今年度は反動で指数 143 と回復基調。
 - ・昨人気味の A 方式は上位者層大幅減（指数 43）
 - ・東洋大・国際地域との併願関係が強くみられる
 - ・学習院・国際社会とバッティング（2 月 11 日）
- ⑥ 理工は全体指数 99 と文高理低の中で一定の健闘。B 以上の層も増えた。

<立教大学>

- ① 大学全体は前年並みで変動の少ない入試。一般個別入試で志望者増の学部学科が目立つ。
- ② 2016 年度よりグローバル方式（2 月 6 日）を導入。全学部で合計 100 名。
 - ・英語外部試験の受験義務
 - ・一般入試の全学部入試と同日。入試問題は共通。
 - ・学部・学科によっては一般方式よりも受けやすい。
- ③ 入試変更： 全学部で一般、グローバル方式ともに政経の選択が可能に。
- ④ 経営： 志望者増（112）も C レベル以上は大きく変わらず。
- ⑤ 経済： 志望者数増（指数 106）。
 - ・昨年度より志望者数増加（指数 111）。
 - ・2015 年度より慶応・経済と入試日程バッティング。2015 年度は 300 人以上受験者を減らしていた。中央・商、成蹊ともバッティングしている。

2017 年度入試動向 まとめ

- ⑥ 異文化コ： 今年は全体として指数 93 と減少。
- ・ 83 人という小さい募集単位のため指数の振れ幅も大きい、近年の上昇が落ち着く。
 - ・ 倍率の上昇が顕著 2015 年度 8.9 → 2015 年度 11.7 → 2016 年度 13.3
 - ・ 2010 年から立教の中でレベル上昇が顕著（合格者平均の偏差値は 70）
- ⑦ 理： 学部全体で指数 90。幅広い募集単位で志望者減。
- ・ C レベル以上も軒並み減少。易化。

<中央大学>

- ① 全体としては、前年並み。文系学部の多くで志望者増か、理系は減少。
- ・ 2015 年度は多くの学部で志望者減少。2016 年度は大幅な回復。今年は水準を維持。
- ② 経済、文、総合政策で英語外部試験利用型を新規実施
- ③ 法： 志望者 105 と増。C 以上には大きな変化なく、前年並みの入試か。
- ・ 2016 年は指数 124、C 以上の増加が目立ち難化。
 - ・ 英語偏差値 67 を目安
- ④ 総合政策
- ・ 入試変更： 国語 現文のみ → 現古
 - ・ 募集人員変更 政策科学（60 名 → 55 名）、国際政策文化学（40 名 → 35 名）
 - ・ 志望者増（指数 109）、上位層は減少も見られる。
- ⑤ 理工： 指数 94 で減少。C～B レベルの減少もあり、易化予測。
- ⑥ 経済、文、商： 志願者増も、C 以下の増加が目立つ。 → 難易度変化なし

<法政大学>

- ① 大学として志願者増が顕著。ほとんどの学部で志望者増。
- ・ 2 年連続志望者数を伸ばす。
- ② 法（111）、文（115）、国際文化（119）などの文系の伸びは著しい。
- ・ 文系のほとんどが市ヶ谷にあることも関係。
- ③ 国際文化、文、現代福祉、デザイン工でセンター新規実施の募集単位あり。
- ④ 経済（多摩 C）： 志望者指数 126 と大幅増。C 以上はやや増え、C 以下での増加が目立つ。やや難化か。
- ⑤ 経営（市ヶ谷 C）： 志望者指数 122 と大幅増。C 以下の増加が目立ち、難易度の変化なし。
- ⑥ GIS： 前年並み。T 日程、英語外部試験利用型は増加の傾向。一般は減少か。
- ・ 2016 年度は指数 120 と伸ばし、難化傾向だった。倍率も 3.5 倍から 5 倍に回復。
 - ・ T 日程のほうが個別より難易度高い。偏差値 70 前後が目安に。
 - ・ 難易度は高く、合格者偏差値 69 と上昇傾向
 - ・ 一般入試は、上智・外国語／英語とのバッティング

<学習院大学>

- ① 大学全体で志望者増。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・ 2015 年度 7900 人から 2017 年度 11000 人と大幅アップ
- ・ 国際社会の人气が全体を底上げ
- ② 国際社会： 指数 105 で続伸。C レベル以上も増加、難化予測。
 - ・ 2017 年度から英語外部試験利用型の B 方式を実施。20 名募集。現行の 100 名から振り分ける。 → 一般入試はますます厳しい入試に。
 - ・ 2016 年度（初年度）の実質倍率は 4.1 倍。
 - ・ 志望者の集団は法政・国際文化と同等レベルぐらい
 - ・ 併願先： 明治・国際日本、学習院・経済、法政・国際文化
MARCH の上位学部、留学を課す大学との併願が多い。
 - ・ 受験日は青山・地球社会とバッティング
- ③ 法： 志望者増（114）、C レベル以上でも増加。
 - ・ 倍率： 2015 年度 2.7 倍 → 2016 年度 4.6 倍
- ④ 文（109）、経済（117）も志望者を集める。
- ⑤ 理： 全体指数は 99。下がる学科も見られるが、物理指数 127 が全体の数字を維持。
- ⑥ センター出願枠いまだなし

< 國學院大学 >

- ① 志望者減の学部が目立つ。
 - ・ 文（97）、法（97）でも減少。経済は 105 と増加。
- ② 文、経済の B 日程で英語外部試験の利用が開始（みなし得点方式）。

< 成蹊大学 >

- ① 文系学部は志望者増。法、経済は指数 115。
- ② P 方式（国公立大併願方式）を経済学部でも新規実施。
- ③ 経済学部で英語の試験時間が 80 分から 60 分に変更。
- ④ 理工： 志望者減（95）。B～C レベルで志願者減。易化予測。

< 成城大学 >

- ① 総じて志望者減。全ての学部で 100 を下回る。
 - ・ 2016 年度は全体的に増加していた。
- ② 社会イノベーションのセンター利用はリスニングが必須に。

< 明治学院大学 >

- ① 大学全体では志望者が増加継続。
 - ・ 2015 年度から全学部方式、地方入試の増設
- ② 法（107）、経済（110）、国際（103）、心理（102）で志望者増。

2017 年度入試動向 まとめ

<武蔵大学>

- ① 大学全体で志望者増。
- ② 経済（111）、人文（105）と増加、社会（100）も前年水準を維持。

<日本大学>

- ① 大学全体は志望者増。
 - ・2015 年度は N 方式の導入で全体の志望者数が大幅増（指数 127）。その後、増加継続。
- ② 文系学部を中心に増加する学部も多い。
 - ・法（108）、経済（114）、商（112）、国際関係（116）。文理（109）、芸術（114）
 - ・理系も工（111）、生産工（105）、歯（112）は増加。
- ③ 法、経済、文理は C 以下で増加が見られ
- ④ 商は C～B 層にも増加が見られる。
- ⑤ 危機管理は指数 81 と大きく減少、C ライン以上でも減少。
- ⑥ スポーツ科学は 98 と微減、C ライン以上の減少も見られる。

<東洋大学>

- ① 全体は 8000 人の大幅増。
 - ・2016 年度はこれまでで最高の 8 万 5000 人の受験志願者があり、伸びていた。
 - ・赤羽台キャンパスの新設が好影響
- ② 学部改組： 国際地域学部 → 国際学部、国際観光学部
(グローバルイノベーション学科は授業は一部英語 + 留学プログラム)
文 英語コミュニケーション学科 → 国際文化コミュニケーション学科
学部新設： 情報連携学部
- ③ 12 学部で英語外部試験利用を開始
 - ・英語については、個別英語試験か外部試験かを選択可能。両方受験した場合は高得点のものを判定に利用。
- ④ 新設・学科改組のある募集単位で志望者増。
 - ・秋以降の模試で認知が広がり、志望者増を見せる。
 - ・国際学部、国際観光学部は国際地域と比較して、それぞれ 167、235 の指数。
 - ・国際学部の志望者数： 1477 人／募集 173 人
 - ・国際観光の志望者数： 3199 人／募集 180 人
- ⑤ ここ数年合格ラインの下がっていた文、法、経営でも志望者が大きく増える。
- ⑥ 情報連携、総合情報は相互の併願系が強い。他大では専修大、工学院大、芝浦工大。
- ⑦ 理系は 100 を下回る学部が多い。

<駒沢大学>

- ① 全体的に志望者増。一昨年度より続伸。
- ② 経済（110）、経営（114）、法（107）、文（104）を中心に増加の学部が多い。

2017 年度入試動向 まとめ

- ③ グローバル・メディア： 人気落ち着き、今年は指数 98 で微減。
・2015 年度は志望者数大幅増

<専修大>

- ① 総じて志望者数。全ての学部で増。
② 全学部入試で仙台、郡山、新潟、長野、名古屋の 5 会場を新設。
③ 一般入試で英語外部試験利用を開始。
・個別入試でも英語を受験した場合は、高得点のものを採用。

<大東文化大学>

- ① 総じて志望者減。
② 経済 (100)、経営 (101) が前年並みも、他学部は軒並み志望者数を減らす。
・文 (85)、外国語 (86)、国際関係 (89) の減少は顕著。倍率も 1 倍台に。
③ 2018 年度入試から新設：
・スポーツ健康 看護学科
・文学部 歴史文化学科
・社会学部 社会学科 (学部新設)

<東海大学>

- ① 総じて志望者減。
② 観光 (112)、国際文化 (107)、政治経済 (100) を除いて、志望者減。
・経営、国際文化は実質倍率 1.2~1.3 倍で推移

<亜細亜大学>

- ① 総じて増加。
・法は 124 で増大幅増。
② 都市創造： 2016 年新設。実質倍率は 1.3 倍だった。2017 年度は指数 106 で増加傾向。
③ 全学部入試を中期で実施。

<帝京大学>

- ① 2016 年経済、法、文で入試変更があり、負担増となった。2017 年は経済 (111)、法 (117) と志望者を増やす。文は 99。
・2016 年度に入試変更があり、2 科目から 3 科目。英語が選択から必須で負担増。
② 外国語： 2017 年度入学制から留学が必修に。志望者指数 109。

<津田塾大学>

- ① 学部新設： 総合政策
・千駄ヶ谷キャンパス。

2017 年度入試動向 まとめ

- ・募集辞任 80 に対し 465 と人気。
- ・学内併願のほか、早稲田・文化構想、慶應・総合政策、青学・総合文化との併願関係が見られる。

② 学芸は前年並み。

<日本女子大学>

① 文、人間社会で微増。理、家政で減少。

<東京女子大学>

① 全体では指数 103。得に個別入試はおおむね志望者が増加。

<大妻女子大学>

① 比較文化： キャンパス移転の影響で前年度増加したが、今年度は反動もあり、指数 83 と下げる。

② 社会情報： キャンパス移転の影響で指数 194 と大幅アップ。

- ・2017 年度入学生から 4 年間千代田キャンパス。

<共立女子大学>

① 全学部で志願者増加。

② 看護が指数 120。2016 年度は倍率 3 倍台を回復。

<実践女子大学>

① 全学部で増加。ただし、近年倍率が下がり、実質倍率 1 倍台。

<工学院大学>

① 建築は人気継続。情報、工も志望者増。

② 学部総合入試： 入学後に学科選択

<東京電機大学>

① 学部改組： 工学部システム

- ・175 名の募集に対して 1147 名と上々

<芝浦工業大学>

① 全体的にはやや志望者を下げる。

② 学部改組： 建築学科から建築学部へ

- ・指数 104、幅広い層で増加。C レベル以上も増え、難化予測。

③ 工 (93)、システム理工 (82) は減少。

④ 最近、芝浦工大は受かりにくくなったという傾向。2016 年度は倍率が下がり、落ち着いた。

2017 年度入試動向 まとめ

- ⑤ 工： 近年、国公立（千葉大、電気通信大）との併願関係が強まっている

<千葉工業大学>

- ① 大学全体の志望者数増加が落ち着く。
② 創造工・建築は競争激化。今年度も指数 127 と思慕者を増やす。
・倍率 2015 年 5.0 倍 → 2016 年 14.1 倍
③ 情報科学は指数 108。
④ 工： 前年並み。ここのところ難化傾向。

<東京農業大学>

- ① 改組、新設のある生命科学は全体指数 165 と大幅に増加。

<文教大学>

- ① 外国語学科が新設される文は指数 109。

G 入試日程 : ポイントとなる入試日

<系統別>

① 法学

- 2月5日: 上智・国際法、明治・全、法政・全
- 2月6日: 立教・全、明学・政治
- 2月7日: 上智、青山・全、成城(2月13日から移動)
- 2月8日: 立教、法政・国際政治
- 2月12日: 中央が法と国際法(お金を払えば両学部とも受験可能)

② 経済・経営・商学

- 2月2日: 東京理科大学・経済、ビジエコ
- 2月6日: 立教・全、学習院、明学、成城
- 2月7日: 上智、青山・全、法政、明学
→ 6日、7日は経済系統には外せない
- 2月11日: 東京理科・ビジエコ(グローバル)、明治、中央
- 2月12日: 立教、法政
- 2月13日: 慶應、立教、成蹊
- 2月15日: 中央、青学

③ 国際

全体的に早い時期に入試日が乱立している

- 2月4日: ICU(2月6日から移動)、上智・外国語/ド、ポ(2月7日から移動)、東京女子、明治学院
→ 上智・外/英は2月7日に移動、ICUとのバッティングはなし
- 2月5日: 明治・全、法政・全、津田塾
→ 上智・外/ド、ポは2月4日移動
- 2月6日: 上智・総合グロ、立教・全
→ ICUが移動し、バッティング解消(ICUの併願が多少生まれるか)
- 2月7日: 上智・外/英(2月4日から移動)、青山・全、法政 GIS
→ 青山、法政に打撃か
- 2月8日: 立教・異文化
→ 大きなバッティングがなく受けやすい
- 2月9日: 上智・外/物など、中央・全、明治・国際日本
- 2月10日: 青山・総合文化政策 B
- 2月11日: 学習院・国際社会、青山・地球社会
→ 受験生の分散傾向も、両者とも志願者大幅増の人気
- 2月21日: 青山・総合文化政策 A(2月14日から移動)

④ 数学、物理、化学

2月3日： 東京理科・理工、数学（2月5日&6日から移動）、上智 TEAP、北里・理

2月5日： 東京理科・理、応用系、理工、先進化（2月4日&13日から移動）、
明治・全、法政・全

2月7日： 明治・理工、青山・全、学習院・理（2月8日から移動）

2月8日： 東京理科・理、数学（2月12日から移動）、上智・理工、中央

→ 東京理科大が慶応とのバッティングを外して移動、上智とのバッティング
学習院は2月7日に移動

2月12日： 慶応・理工

→ 東京理科大は2月8日に移動

⑤ 建築・土木・環境

2月6日： 東京理科・建築、東京理科・土木工（2月4日から移動）・・・併願可

2月9日： 東京理科・工／建築（2月8日から移動）

⑥ 薬学

2月1日： 北里、明治薬科、日本、帝京（1月29日から移動）

2月3日： 星薬、東邦

2月5日： 東京理科（2月11日から移動）、明治薬科、日本、
武蔵野（2月6日から移動）

⑦ 医学

あらゆる大学が変更したが、毎年ながら談合したかのように大きなバッティングがない

⑧ その他

・今年度は昨年度よりも2日間センター試験日程が前倒し。1番遅い年に比べると1週間早い。

→ 1週間早くセンター準備を計算する。

センター後は私大、2次に時間をかけて集中できる。

・慶応は医以外は国公立前期の前に合格発表

・関西は2月8日までには受験が大方終了。全学部入試が多い。